

「味わい、学ぶ、郷土の先哲」

学校給食に「久留島流すき焼き」 日出生小で特別授業も実施



知るともっと好きになる
私たちのふるさと玖珠町

玖珠町では、学校教育の中で、郷土の先哲に学ぶ学習を推進しています。子どもたちが郷土への理解を深めるとともに、郷土を愛し、より良くしようとする気持ちの育成が目的です。

この取り組みの一環で、2月5日、町内の小中学校と幼稚園で久留島武彦先生についての学習を行いました。そして給食には「久留島流すき焼き」を提供しました。

玖珠町はなぜ童話の里？
金成妍館長の特別授業も

当日、日出生小学校では、久留島武彦記念館の金成妍（キムソンヨン）館長が来校し、全校児童（小野原分校児童を含む）と地域の方を対象に特別授業を行いました。

全国各地をたび回り、たくさんのお話を聞かせてきた久留島先生。その大好物が「すき焼き」だったことや、先生が童話作品や口演活動を通して子どもたちに伝えたかったメッセージなどを学びました。

また、ゆるキャラ「くるりん」も登場し、楽しい授業になりました。



久留島先生が愛した「久留島流すき焼き」を学校給食で再現

楽しく学んだあとは、お待ちかねの給食タイム。久留島先生こだわりの作り方で、「おおいた和牛」と野菜や米など玖珠町産の食材をふんだんに使用して再現した「久留島流すき焼き」に、子どもたちは大喜び。おかわりする子どもも出る人気ぶりでした。町が誇るおいしい食材を五感で味わい、しっかりと学習できた様子でした。

有志のみなさんの寄付で実現

「久留島流すき焼き」の学校給食での提供は、昨年度から始まり今回で3回目です。

有志のみなさんから寄付が寄せられ、1月25日、久留島流すき焼き実行委員会（原孝彰代表）から「おおいた和牛」の購入費用の一部として町に贈られました。役場を訪れた原会長は「食を通じて子どもたちに久留島先生をより深く知ってもらい、郷土愛が育まれることを願っている。今後この取り組みを継続していきたい」と話しました。



寄付目録を宿利町長に手渡す原会長（写真右）